

LIBRARY INFORMATION ライブラリー・インフォメーション

### 自動貸出機でタッチペンが使えるようになりました。

※2階カウンター横と、1階入り口付近に設置しています。



画面の指示に従い、貸出券をかざしてください。



操作がしにくい場合、タッチペンをお使いください。



▲本の貸出をご自身で行えます。



レシートが出たら操作は完了です。

展示 PICK UP

### 2F パープルゾーン【江戸・東京】の本を集めたゾーン ~9/13(金)

## 「改」

新元号「令和」がスタートしました。江戸から東京へと大転換した明治維新、関東大震災から復興するための新たな都市計画、1964年東京オリンピックを含む高度経済成長、そして来年再び訪れるオリンピックイヤーに向け、東京がどのように進化しつつあるのかを軸に、その間の経済や文化、人々の暮らし向きの変化について、「改」をキーワードに資料を集めました。

タイトル「改」は改元の改から。

『源氏物語 A・ウェイリー版 第一巻』

著者：紫式部  
英訳：アーサー・ウェイリー  
日本語訳：穂矢まりえ+森山恵姉妹訳  
左右社 2017年

『オリンピックと東京改造』

著者：川辺謙一  
光文社 2018年

7月の展示情報 ※展示情報は変更する場合がございます。

- 2F パープルゾーン 三角台**  
日比谷カレッジ「絵本を手にした子どもたちの今～絵本を届けてきた20年～」関連展示（～7/31）  
7月27日に開催する日比谷カレッジにちなみ、東南アジアを中心に読書推進事業を続けている「シャンティ国際ボランティア会」の活動紹介パネルを展示しています。関連書籍やパンフレットもあわせてご覧ください。
- 3F エレベーターホール ガラスケース**  
日比谷カレッジ「平野啓一郎が語る、平野啓一郎-20年の作家生活とその作品群」関連展示（～8/31）  
執筆のための参考資料や実際に使用していたワープロなど、2018年に作家生活20周年を迎えた平野啓一郎氏にまつわる貴重な資料を展示しています。数々の著作を生み出した平野氏の礎をご覧ください。
- 3F グリーンゾーン**  
『食 -令和ver.-』（～10/18）  
グリーンゾーンには新たに、食品や料理に関する本が多数入りました。そこで、「食のUP DATE」と銘打ち、皆様に手に取ってもらえるよう展示し紹介しています。また、未来型食材や現代の風潮にあった食生活の紹介も行っています。
- 3F ブルーゾーン**  
「比(くらべる)」(～8/16)  
過去と未来、朝と夜など対になる二つのものを様々な角度から比べました。その両方を比較することで、常識や思い込みにとわれない「新たな視点」のヒントが生まれるかもしれません。

### 人気ナンバー1に選ばれた猫は？

「朝倉文夫の猫 AKN24 総選挙@日比谷」の結果を7月1日(月)館内で発表します。あなたの選んだ猫は選ばれたかニヤ？ また見事1位に輝いた猫作品は台東区立朝倉彫塑館で展示されます。  
▶展示期間：2019年7月5日(金)～9月1日(日)

### ES・ディー・ジーズ 16年連続 SDGs × 語り継ぐ

令和という新しい時代をみなさんはどのように迎えたでしょうか。マスメディアをはじめ、さまざまなかたちで平成の31年を振り返る機会がありましたが、幸いなことに平成は戦争のない時代となりました。それはあの戦争を経験した方々が、戦争がどんなに愚かで悲惨なものであるかを語り継ぎ、戦争を知らない世代にも深くその思いが刻まれているからではないでしょうか。海外に向けて、令和は“Beautiful Harmony(美しい調和)”と訳されます。この訳にふさわしい平和な世界が実現されることを願います。

「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals, SDGs)」は2015年9月、国連サミットで採択された世界を変えるための17の目標です。その中の一つに“16平和と公正をすべての人に”があります。

『戦中・戦後の暮らしの記録 君と、これから生まれてくる君へ』  
暮しの手帖社 2018年

### 日比谷カレッジ 報告

## 市井の記憶を記録する

～『戦中・戦後の暮らしの記録』を編んで～

日時： 5月31日(金)  
講師： 村上 薫(暮しの手帖編集部 書籍担当)  
聞き手： 遠山 秀子(山陽堂書店取締役)  
朗読： 黒津 由子

過去の体験だけでなく未来への気持ちが入められた数々の投稿原稿を紹介していただきました。

戦争を知らない世代が大半となるなか、過去の体験を後世へ伝えたいという思いを託された雑誌『暮しの手帖』が、『戦中・戦後の暮らしの記録』を編集した際のエピソードをお話いただきました。投稿者の朗読により、戦中・戦後を生きてきた方の実体験が強く印象に残りました。

From Chiyoda Public Library 【千代田区立図書館からのお知らせ】

## 千代田図書館で学ぼう！ 夏のわくわく課外授業2019

毎年恒例の夏休み企画です！さまざまな分野で活躍する方が先生となって楽しい授業を行います。お子さんとのご参加お待ちしております。

**社会**

【からだで話そう 手話で話そう】

日時：7月27日(土) 10:30～12:00  
場所：千代田図書館9階 第1研修室

**英語**

【英語でまち案内をしよう】

日時：8月3日(土) 10:30～12:30  
場所：千代田図書館10階 子ども室

**図工**

【図書館の“親切サイン”を作ろう】

日時：8月5日(月) 10:30～12:30  
場所：千代田図書館10階 子ども室

▶対象：小学校4～6年生の児童とその保護者(事前申込制、各300円) ※詳細はホームページなどでご確認ください。  
▶お問い合わせ先：千代田図書館読書振興センター 電話03-5211-4289・4290

千代田区立日比谷図書文化館 広報誌

# 食

## 日比谷公園で出会う 初夏

GOOD RESTAURANTS IN HIBIYA PARK

季節、木々の緑も深みを増し、木陰を歩けば気持ちの良い季節。日比谷公園はビジネス街の中にあるとは思えない都会のオアシスです。しかし、魅力は自然だけではなくありません。個性豊かで美味しい様々な「食」に出会えるのも魅力の1つ。東京の中心に居ながらにして都会の喧騒を忘れ、自然に囲まれながら料理に舌鼓を打つ。他では味わえない至福の時間となることでしょう。一休みしたら、日比谷図書文化館へも是非どうぞ。公園の散歩と同じように館内を歩けば、興味深い展示や心に響く本が皆さんをお待ちします。日比谷公園で心もお腹も満たされる、素敵な1日を過ごしませんか。



### 松日本比谷楼

創業 三十六年

### HIBIYA MATSUMOTORO

明治36年に日比谷公園が開園した当初からある老舗レストラン。「松本楼でカレーを食べてコーヒーを飲む」ことが大流行した当時から変わらぬ日比谷公園の顔。



【ハイカラビーフカレー】  
創業以来変わらない秘伝のレシピで作られるカレーは絶品。

### KAMOS HIBIYA

2019年2月にオープン！昔ながらの建物をリノベーションした店内には素材にこだわった商品を販売。キャンディの様に包まれたお稲荷さんは公園を散歩しながら味わいたい。

創業 三十二年



### ヒカビモヤス

創業 三十二年

【いりこうどんの選べるおいなり2ヶセット】  
出汁にこだわったうどんと可愛いお稲荷さんのセット



### HIBIYA SAROH

昭和24年創業のビアレストラン。風を感じるオープンテラスで世界各国のビールを楽しむことができる。海外からのお客様も多く、異国情緒を感じられる。

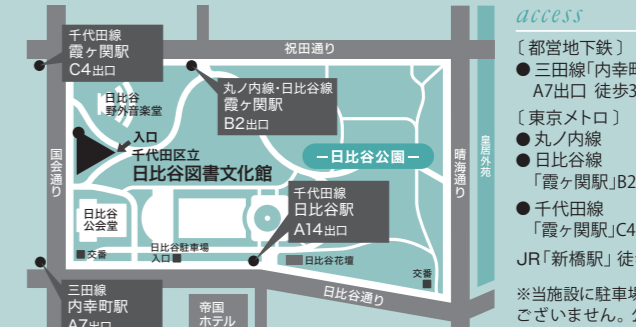
創業 二十四年

【東京サローライス】  
タイ料理のガパオライスをサロー風にしたオリジナル料理。

calendar 開館時間：平日10時～22時 ■ 土曜10時～19時 ■ 日祝10時～17時 ■ 休館日

2019年7月							2019年8月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6				1	2	3	
7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10
14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17
21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24
28	29	30	31				25	26	27	28	29	30	31

■ お問合せ先：千代田区立日比谷図書文化館 〒100-0012 千代田区日比谷公園1-4  
TEL：施設代表 03-3502-3340 図書総合カウンター 03-3502-3343 URL: https://www.library.chiyoda.tokyo.jp/hibiya/



access  
〔都営地下鉄〕  
●三田線「内幸町駅」A7出口 徒歩3分  
〔東京メトロ〕  
●丸ノ内線  
●日比谷線  
「霞ヶ関駅」B2出口徒歩3分  
●千代田線  
「霞ヶ関駅」C4出口徒歩3分  
JR「新橋駅」徒歩10分  
※当施設に駐車場・駐輪場はございません。公共交通機関をご利用下さい。

# 7・8月の講座

▶「日比谷カレッジ」とは、日比谷図書文化館が主催・共催で行うセミナーやイベントです。「江戸・東京」「本」「スキルアップ」「芸術」「センスアップ」の5つのカテゴリーに基づき、さまざまな「学び」と「交流」の場を提供します。

## 7/3 (水) 世界の音楽2019 口琴の響き、その秘密 ～たったひとつの音源から、様々な音色を引き出すには～

講師：直川 礼緒(日本口琴協会代表)

ユーラシア大陸で生まれ、世界中で演奏されている楽器、口琴。たったひとつしか音源を持たない、一見「未発達」なこの楽器から、さまざまな音色や音程を引き出すために、重要な役割を果たす「共鳴器」としての人間の口腔」と「倍音」とに焦点をあて、音響的な観点から口琴について考えます。



- 日時：7月3日(水) 19:00～20:30(18:30開場)
- 会場：4階 スタジオプラス(小ホール)
- 定員：60名 ■参加費：1000円

## 7/11 (木) 地図から読み解く自然災害のリスク -自然災害は、土地の成り立ちと利用方法とのミスマッチング- 講師：乙井 康成(国土交通省 国土地理院 関東地方測量部長)

平地の地形の多くは河川活動により作られている。例えば、かつて川の流れていた場所は周辺より低く、大雨の時は水が集まるのが予想でき、土地の特性と利用方法が合わないと災害が起きるリスクが高まる。国土地理院の地図などを引きながら、過去の被災事例を基に、どのような場所がどのような災害を受ける危険性が高いのかを紹介する。(協力：国土地理院)



自然堤防

- 日時：7月11日(木) 19:00～20:30(18:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：200名 ■参加費：500円

## 7/24 (水) 第14回 ジャパンナレッジ講演会 辞書編集者の平成ことば考 ～辞書編集者を悩ませる、日本語⑦

講師：神永 暁(国語辞典編集者)

「“ヤバイ”の変遷」、「小泉劇場、村度……政治家の言葉はどう変化した?」「平成の国語辞典七変化」—昭和55年の出版社入社以来、辞書編集ひとすじの人生を送っている神永さん。昭和後半から平成まで出会った印象的な日本語を取り上げます。(主催：ネットアドバンス、共催：日比谷図書文化館)



- 日時：7月24日(水) 19:00～20:30(18:30開場)
- 会場：4階 スタジオプラス(小ホール)
- 定員：60名 ■参加費：1000円

〈参加申込〉電話(03-3502-3340)またはホームページにて、講座名、お名前(よみがな)、お電話番号をご連絡ください。当館1階の受付でもご予約を承ります。各講座ともに定員になり次第、締め切らせて頂きます。キャンセルの場合はご連絡ください。参加費は当日支払いです。千代田区民料金のある講座は、当日、図書貸出券や健康保険証など住所が確認できるものをお持ちください。

## 7/27 (土) 絵本を手にした子どもたちの今 ～絵本を届けてきた20年～

講師：鈴木 晶子(公益社団法人シャンティ国際ボランティア会 広報リレーションズ課課長)

アジアの子どもたちに絵本を届けるというボランティア活動をご存知でしょうか。子どもたちは、絵本を読むことではじめて世界を知り、文化を知り、歴史を学びます。その子どもたちが、どのような人生を歩き始めたのか。20年間の活動を通して見えてきた絵本の力をお話しいたします。講演会の後半では、シールを貼って翻訳絵本をつくるワークショップを行います。



写真：©Yoshifumi Kawabata

- 日時：7月27日(土) 14:00～16:30(13:30開場)
- 会場：4階 スタジオプラス(小ホール)
- 定員：40名 ■参加費：1500円(材料費込)

※完成した絵本はアジアの子どもたちに贈るため、持ち帰りできません。

## 8/9 (金) 江戸歴史講座 第61回 江戸東京の怪談文化を考える ～番町皿屋敷を中心に

講師：横山 泰子(法政大学理工学部教授)

大都会・江戸では、当時の自然環境や人間関係を反映した様々な怪談が語られました。千代田区を舞台とする「番町皿屋敷」や「番町七不思議」など、興味深い話を鑑賞しながら江戸時代の怪談文化の背景を考えるとともに、昔の人々が作り上げた幽霊のイメージが、現代にどのように継承されているかを考えます。



- 日時：8月9日(金) 19:00～20:30(18:30開場)
- 会場：4階 スタジオプラス(小ホール)
- 定員：60名 ■参加費：1000円(千代田区民500円)

## 8/20 (火) 令和の日本経済 —人口減少と経済成長—

講師：吉川 洋(立正大学長)

人口減少が進み、働き手が減っていく日本。財政赤字は拡大の一途をたどり地方は消滅の危機がある。もはや衰退は不可避ではないか。そんな閉塞感が日本を覆っている。それに対し長く人口問題と格闘してきた経済学は否と答える。先進国の経済成長を握るのは何か。日本経済の真の課題について考える。



- 日時：8月20日(火) 19:00～20:30(18:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：200名 ■参加費：1000円

## 8/21 (水) 星をたずねて・彗星

講師：皆川 敏春(星のソムリエ®みたか) 北崎 直子(星のソムリエ®みたか)

夜空に忽然と現れる彗星。太古より流星と共に災いと恐怖をもたらすとして忌み嫌われていた存在。ハレーの時代から、コメットハンターに狙われ科学の対象として扱われると、一転、天文界の華やかな存在に位置づけられるようになりました。今宵、星のソムリエとその歴史や正体をたずねる旅に出しましょう。



「ヘール・ボップ彗星」撮影：皆川 敏春氏

※7月7日(日)より受付開始

- 日時：8月21日(水) 19:00～21:00(18:30開場)
- 会場：4階 スタジオプラス(小ホール)
- 定員：60名 ■参加費：1000円

## 8/22 (木) ブリティッシュ・ファッションの誕生 —メイド服から花柄のドレスまで

講師：坂井 妙子(日本女子大学 人間社会学部教授)

ブリティッシュ・ファッションの代表格であるメイドの服と花柄のドレスを中心に、その成り立ちをヴィクトリア朝文化と社会の特徴から解説します。講師がイギリス中の美術館を回って撮った貴重な現存資料の写真も多数、投影。ファッション、イギリス文化、または、歴史に興味のある方にお勧めします。



- 日時：8月22日(木) 19:00～20:30(18:30開場)
- 会場：4階 スタジオプラス(小ホール)
- 定員：60名 ■参加費：1000円

## 8/30 (金) 展覧会への入口講座Vol.28 千代田区内ミュージアム連携企画 没後90年 岸田劉生展 こんなところがスゴイ!

講師：田中 晴子(東京ステーションギャラリー学芸室長)

「天才」とも「非凡人」ともいわれた岸田劉生(1891-1929)は、日本の近代美術の歴史において独創的な絵画の道を歩んだ孤高の存在です。そして、同時代の画家たちへも強い影響を与えました。講座では、「没後90年 岸田劉生展」の見どころや、あの名作の生まれた背景などをご紹介します。



《麗子肖像(麗子五歳之像)》 1918年10月8日 東京国立近代美術館

- 日時：8月30日(金) 19:00～20:30(18:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：200名
- 参加費：1000円(千代田区民500円)

文化財事務局ミニ企画展  
予告 「日本橋川と大名屋敷 —新発見・一橋徳川家屋敷跡—

一橋徳川家屋敷跡の発掘調査の成果資料などを展示し、江戸時代初期に開削された人工の河川・日本橋川とその周辺に立ち並んだ大名屋敷を紹介します。

■期間：2019年7月17日(水)～8月25日(日)  
■会場：1階 特別展示室 ※詳しくは次号でご紹介します。

## ◆古文書塾てらこや7月本講座開講◆

古文書専門塾として、初心者から経験者まで楽しみながら学んで頂ける「古文書塾てらこや」。多種多様な講座を開講します。



	講座名	曜日・時間	開講日
特別講座 90分	大久保利通の手紙を読む	(火) 19:00～	7/9
	浮世絵を読む【紅色クラス】	(水) 10:20～	7/3
	浮世絵を読む【藍色クラス】	(水) 10:20～	7/10
	開国ニッポンの外国人—教室で語るドキュメンタリー番組	(水) 13:30～	7/10
	商家文書を読みとく—三井の子弟教育	(水) 19:00～	7/10
	江戸を楽しむ—江戸の寺社あれこれ	(木) 18:30～	7/11
	江戸・明治の書状を読む—形式と内容、一步から	(金) 18:30～	7/12
	絵と文字で楽しむ江戸歌舞伎(入門編)	(土) 10:30～	7/6

- 期間：7月3日(水)から順次開講
- 会場：4階 セミナールーム(会議室)
- 定員：各23名(事前申込順)
- 参加費：13,650円(全5回/各回90分/3ヵ月分。別途資料代500円) ※てらこやに関する資料をご希望の方には無料で送付いたします。
- 資料請求・講座のお問い合わせ：電話(03-3502-3340)日比谷図書文化館 古文書塾てらこや担当迄

## 特別研究室企画展示

### 100年後も手に取れる本に ～内田嘉吉文庫修復報告2019～

▶7月16日(火)～9月30日(月)

2018年度に行なった内田嘉吉文庫蔵書の修復記録と修復を終えた本を展示し、長く使い続けるための工夫を凝らした本の修復を紹介します。今回は大型の洋書や和本、絵図など、修復した資料のジャンルがこれまで以上に多岐にわたっています。活用しながら保存するためにどのような修復が必要か、実物と修復作業の記録パネルをご覧ください。



『父』(内田誠 著/双雅房/1935年)

企画展示関連講座は9月に開催予定です。詳細が決まり次第ホームページにてお知らせします。

## 七夕は日比谷図書文化館で過ごす! 今年も大きな笹がやってきます!

日比谷図書文化館では、毎年、七夕の季節に笹飾りを設置しています。今年も、青々とした笹と、色とりどりの短冊をご用意。みなさまに書いていただいた短冊は、日比谷花壇を通じて、国宝にも指定されている宮城県仙台市の大崎八幡宮に奉納されます。笹飾りのほかに、受付コンシェルジュによる、千代田区の七夕のお祭り情報の展示「千代田区で七夕を楽しもう」も行っています。今年の七夕はぜひ、日比谷図書文化館でお過ごしください。



2018年の様子

- ◆期間：～7月7日(日)まで
- ◆場所：1階 エントランスホール